臺灣日日新報　昭和十八年八月一日（日曜日）　（紀元二千六百三年）（明治百一年六月九日第三種郵便物認可）

臺灣日日新報

長沙作戰に武勳拔群
黑木少尉に個人感狀
畏くも上聞に達せらる

【東京發至急報】黑木少尉は昭和十七年一月一日長沙攻略において敵一線陣地を突破し敵に多大の損害を與へ敵の逆襲を撃退して陣地を確保し更に敵の第二線陣地に突入と共に敵の重要なる陣地を占領し

社說

戰力增強に凡てを集中せよ
形式ノ手續きの簡素化

一

新體制運動は愈〻一月の定例國會に於て、新年の施政に先き立ち、國民組織の確立の為の方策として、議會の協賛を經て、一切の國民は、擧國一致、國家の為に、全力を盡すべき國民組織の實現、企業の再編成等に依る國民生活の安定確保の為の諸施策の實施に入るべき段取りとなつてゐる。

而して、新體制の確立は、單に國民組織の問題に止まらず、經濟の再編成、國民生活の安定確保の問題等、擧國的な諸問題の解決を伴ふものであるが、その中心は、何と言つても、國家總力戰體制の確立にあることは、今更言ふまでもない。

その總力戰體制の確立といふことの意味は、國家總力を最も有效に發揮し得る樣に、國家の諸機構を再編成することであるが、その為には、從來の如き、複雜煩瑣な諸手續きを簡素化して、能率的に運營し得る樣にすることが、何よりも必要である。

二

當局者の方面に於ては、既に、その實現の為の具體的研究に着手されてゐるものと思はれるが、その具體的方策の如何は、國民の最も關心を持つ所であり、又、最も重大な問題である。

元來、國家總力戰體制の確立といふことは、國家の全機構を、戰爭目的の為に、最も有效に發揮し得る樣に、再編成することであるが、その為には、從來の如き、複雜煩瑣な諸手續きを簡素化して、能率的に運營し得る樣にすることが、何よりも必要である。

又、各方面に於ける生産の擴充、乃至は國民生活の安定確保の為には、從來の如き、無用煩瑣な諸手續きを簡素化することが、何よりも必要であらねばならぬ。

又、無用煩瑣な諸手續きを簡素化するために、諸般の節約といふことが、叫ばれてゐるが、實際を見ると、それは國民に對する節約が强いられるばかりで、官廳自體の節約といふことは、殆んど行はれてゐないのは、遺憾ではないか。

更に、國民組織への再編成に當つても、從來の如き、官僚的な方法を以てしては、その實現は、到底期し得ないであらう。

三

以上述べた如く、新體制の確立は、單に國民組織の問題に止まらず、經濟の再編成、國民生活の安定確保の問題等、擧國的な諸問題の解決を伴ふものであるが、その中心は、何と言つても、國家總力戰體制の確立にあることは、今更言ふまでもない。

その總力戰體制の確立といふことの意味は、國家總力を最も有效に發揮し得る樣に、國家の諸機構を再編成することであるが、その為には、從來の如き、複雜煩瑣な諸手續きを簡素化して、能率的に運營し得る樣にすることが、何よりも必要である。

又、各方面に於ける生産の擴充、乃至は國民生活の安定確保の為には、從來の如き、無用煩瑣な諸手續きを簡素化することが、何よりも必要であらねばならぬ。

又、無用煩瑣な諸手續きを簡素化するために、諸般の節約といふことが、叫ばれてゐるが、實際を見ると、それは國民に對する節約が强いられるばかりで、官廳自體の節約といふことは、殆んど行はれてゐないのは、遺憾ではないか。

更に、國民組織への再編成に當つても、從來の如き、官僚的な方法を以てしては、その實現は、到底期し得ないであらう。

中小工業再編成協力會設立準備會

『生産增強、國民生活安定』圓滑迅速なる實施を期す

重點産業能率增進へ
賃金總額制の適用除外

監察員制度を制定
米穀集荷配給決戰調

敗戰 重慶の物價對策
統制を阻害する封建性

臺灣鐵工業統制會
鐵鋼製品部會開催

臺灣 物價維持上の險路

臺灣 菓子配給組合

臺灣 企業整備と資金移動對策

臺灣 度量衡器の販賣者更新

臺灣 簡保等積立金 融通利率引下

臺灣 臺北間の物資交流協定成る

臺灣 配合肥料の一元的統制

臺灣 濱刺たる蒙古の表情

臺灣 潤滑油の生産確保
蓖麻の自家栽培奬勵

臺灣 市況（廿一日）

臺灣 兜町前場況

臺灣 東京國債前場

臺灣 東京長期前場

臺灣 東京短期前場

臺灣 東京銀行實株

臺灣 東京長期總取組

臺灣 東京短期前場

臺灣 大阪短期前場

臺灣 東京短期日歩

臺灣 總動員會議の改組擴充

臺灣 效果なき物價統制法

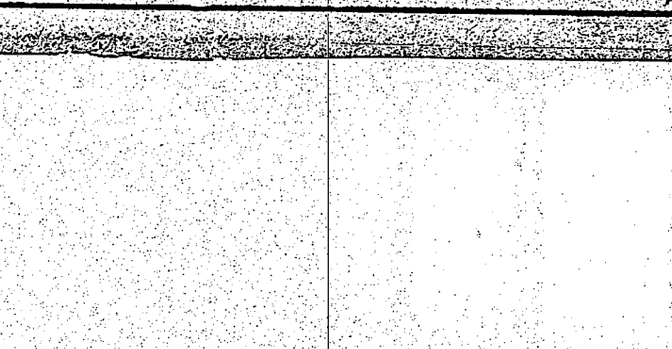
臺灣 四日佐久間總督の追悼法要を嚴修

臺灣 圓機

臺灣 先輩の偉業に續き「出船の精神」に萬全期せ

臺灣 華々し誓

臺灣 遺家族住宅の設立に着工



先輩の偉業し繽さ
「出船の精神」に萬全期せ
石塚警備府參謀長談

妻は瀕死の病床されど敢然會場へ
點呼を續る佳話二重奏

海志特別志願令施行に際し

竹の魂を勵ます
感狀に感泣、黒木少尉の母堂談

飛沫をあげて敢闘
全臺灣水泳大會開く

暴風雨罹災者救濟義捐金募集

部隊合同葬いと盛儀

地元忠靈塔へ獻木
靖國の遺族部隊の考志に、帝都婦人會員から寄書

白衣勇士へ優しい慰問續く

動兒、映畫に愉しむ

木船保險法
施行規則公布
への諸準備

物價抑制の諸方策

園員は一躍四倍餘
區單位の青年團結成

四日佐久間總督の進林法要を盛參

國語發の開催
式を擧行

「船員後援會」
本島にも設立準備進む
本島の二誰も卒業

圓滑實情調給へ
機構配査

學徒荒鷲
新潟着

鳥海市長を陣頭に督勵隊を編成、出動
お米供出に萬全の陣

小波洋裁生徒募集

昭和共榮圏の大東亞戰爭
海軍大捷

NTN
ダンリアベ洋東
大阪・東京・名古屋

今日の映畫
大世界　台劇　新世界　芳乃館　芳明館　敷南映畫場　萬華劇場　太平館　第二世界
中央劇場　臺隆世界館　加久劇場　太和劇場　羅東座　宜蘭座　員平座

防空監視哨員感謝資金

保生醫院

館際國國東

ニュース映畫會

前線より國防獻金

優し、銃後の母勵ます

子のこてしに母のこと

陸軍軍屬 **黃君南方に散る**

戰ふ姿髣髴 同僚への便り

新竹市けふから木炭配給

新興青年學校

軍隊式に夏季錬成

赤誠こめて千百圓

高雄州敎員の建艦獻納

澎湖廳在鄉軍人會

後援會發會式

食用蝸牛捕獲運動

豚の飼料に立派な役目

海軍志願者胸躍る

一青年血書で再び歎願

四勇士の英靈弔ふ

嘉義市葬儀に執行

臺中神社で特

別祈願祭

校外生活指導を強化

臺南州敎護聯盟 けふ第一回理事會

害虫發生これから

臺南州で螟虫撲滅戰

家庭園藝相談欄

軍司令部(九日)

市役所(十)

東郡役所

宜蘭街庄便

社名變更謹告

社名改稱謹告

社名變更謹告

新制電氣講義

中野高等無線電信學校

結核療法の新道

皇奉臺南支會

参與、委員增員

彰化市

さあ頑張らう!

けふから缺勤防止運動

新竹青年演藝講習會

健氣・職場守つて

チヨキン〳〵と國策の音

軍國の妻強し

(2)

椰子

(21)

海野十三作

村上松次郎繪

お手製

そぼしくとも 手際は悪くとも 心のこもつた お手製の品だけが 兵隊さんを からようこばせ んとうになぐさめる ことができるのです。

本社製造 株式會社 武田長兵衛商店

夕刊 臺灣日日新報 第一万五千五百九十四號 昭和十八年八月一日 (日曜日) (一)

臺灣神社祭

七月三十一日

陸軍大學卒業式

畏し東久邇宮殿下台臨

【大本營發表】陸軍大學校では三十一日學生より御差の東久邇宮殿下の台臨を仰ぎ第十二期學生川井田正孝以下四十五名の卒業式を擧行したが、左の如き勅語を賜はつた

【上諭二十一日發同盟】中國に於ける帝國の使命は東亞の安定勢力たるの點に存し、帝國は中國の獨立を尊重し、中國の新興を援助し、以て東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期し、曩に日華基本條約を締結し、更に日華共同宣言を發して、帝國の眞意を中外に闡明したるが、中國の新興は實に帝國の眞意を理解し、之に協力するの一點に在り、中國の新興は

(二)　A　昭和十八年八月一日（日曜日）　每日新聞　第一万五千五百九十四號　（第三種郵便物認可）

富嶽に堅陣 戰機熟し 轟音鮮綠の裾野を壓す

各兵種連合演習觀戰記

畏し 四殿下御視察

決戰下〝休み〟を返上 汗する學徒六千名

あすから陸軍倉庫に奉仕

半日を生産部門へ 休暇全廢、學童を動員

傷病兵、その遺家族へ 須田逓信局長 今夜放送

〝扶助費の增額〟

〝職場の一年生〟に 國民服生地の賜物

待避所は屋外素掘に 内務省防空局 國民に指導方針闡明

病む夫に涙で教ふ 點呼時の諸動作など 執行官も哭く〝軍國の妻〟

漫畫や寫眞で 貯蓄奬勵移動展

後二國志 (164) 吉川英治作 矢野倫村畫

壯途につく學徒荒鷲【七月廿七日朝羽田飛行場にて】